

2020年12月17日

各位

株式会社スプリックス

世界 11 ヶ国 22,000 人の子ども・保護者を対象に、基礎学力に関する調査を実施
10 歳未満の基礎学力は 11 ヶ国中 9 位。基礎学力への自信も欠如
子どもの学力に対する保護者の「意識」と「行動」のギャップに大きな懸念

株式会社スプリックス（本部：東京都豊島区／代表取締役社長：常石博之）が運営するスプリックス基礎学力研究所は、グローバルにおける日本の教育実態を把握すべく、世界 11 ヶ国において子ども・保護者を対象に学習に関する「意識調査」、および基礎学力を測る「学力調査」を実施いたしました。各国 1,000 名ずつ、合計 22,000 名の子ども・保護者へのリサーチ結果から得られたデータを全 4 回にわたり公表いたします。

今後は、Twitter および Facebook のスプリックス基礎学力研究所の公式アカウントへ、一連の調査結果に加え、補足データや最新情報を掲載していく予定です。

★第 1 回：調査結果ピックアップ

- ① 日本の 10 歳未満の基礎学力は、11 ヶ国中 9 位
6 歳～15 歳の総合順位が 4 位であること以上に、低年齢層の基礎学力不足が顕著
- ② 日本の保護者における基礎学力の必要性認識は 95%以上で、他国と比べても高水準
子どもの基礎学力に対する保護者満足度は最も低く、基礎学力への危機意識は強く有する
- ③ 一方、基礎学力向上への努力を行なっていると回答した保護者は 6 割未満で、圧倒的最下位
実際、子どもの学習への関与が 11 ヶ国中最も低く、意識に行動が伴っていない実態が明確
- ④ 子どもの「勉強が好き」「自信がある」との回答が他国と比べて最も低い
年齢を問わず日本の子どもたちは、自信欠如の状態にあることが明らかに

※調査概要

調査地域 以下の 11 ヶ国

日本・アメリカ・中国・インド・イギリス・フランス・ポーランド・タイ・
インドネシア・マレーシア・ミャンマー

調査対象 子ども : 6 歳～15 歳 (各国 1,000 名・11 ヶ国の 11,000 名)

保護者 : 上記子どもの保護者 (各国 1,000 名・11 ヶ国の 11,000 名)

調査手法 インターネット調査

調査内容 「意識調査」: 子ども、保護者を対象に実施した学習に関するアンケート

「学力調査」: 子どもを対象に実施した 50 問の計算に関する基礎的なテスト

実施期間 2020 年 8 月～9 月

本件に関する問い合わせ先

株式会社スプリックス

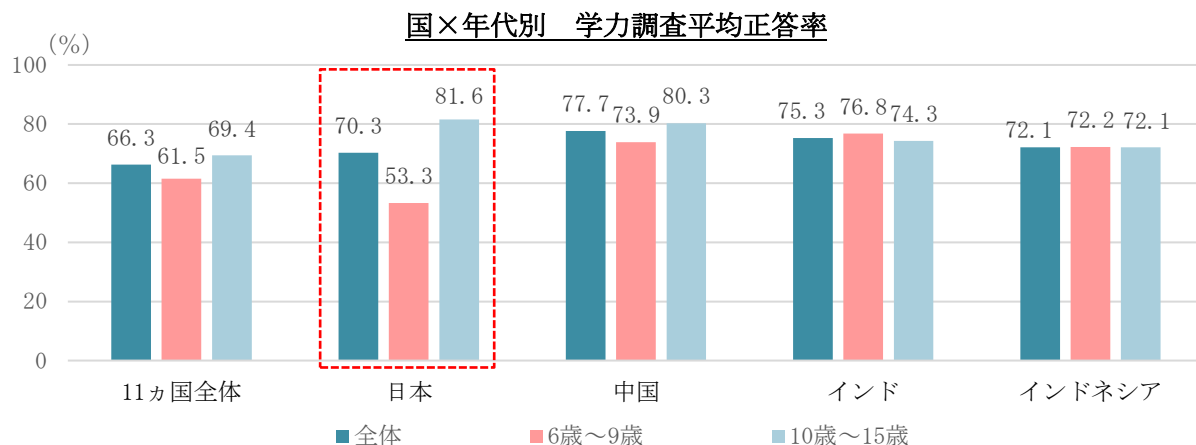
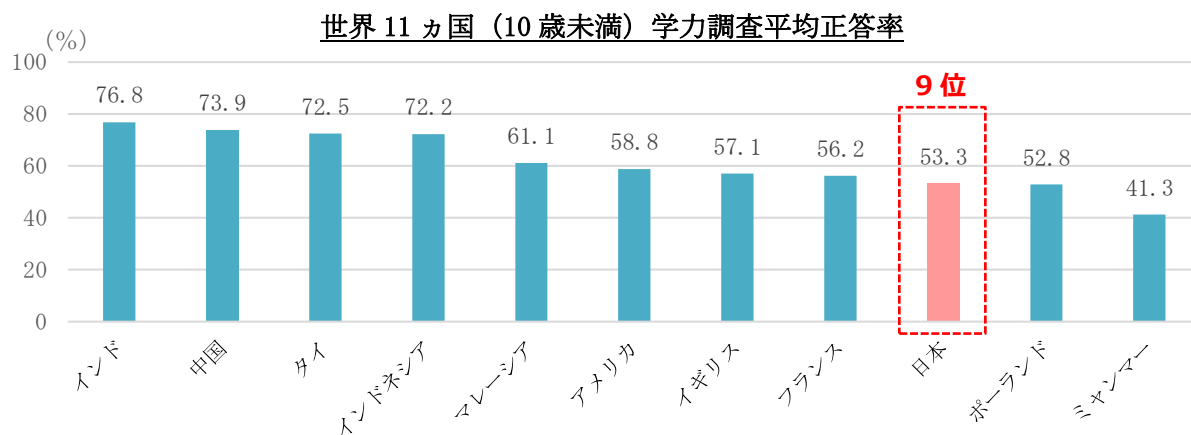
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-11-1 メトロポリタンプラザビル 12F

TEL : 03-5927-1681 eMail : info@sprix.jp

① 日本の10歳未満の基礎学力は、11カ国中9位

6歳～15歳の総合順位が4位であること以上に、低年齢層の基礎学力不足が顕著

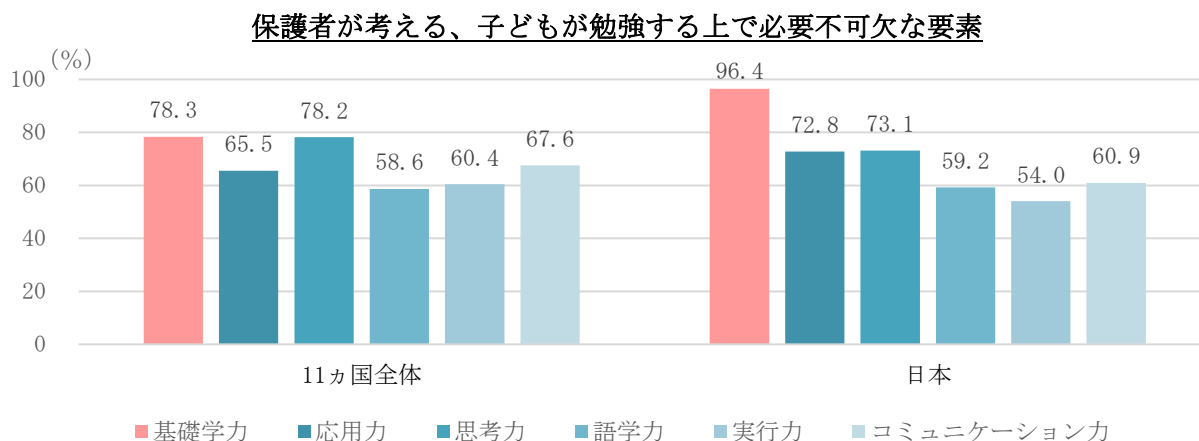
世界11カ国の子どもたちを対象にした基礎学力調査では、全年齢の総合順位が11カ国中4位。一方で、6～9歳の低年齢層では9位となり、総合正答率の上位国と比べ、世代間で学力に大きな開きがあることが判明。特に、日本の7歳は11カ国中10位。



② 日本の保護者における基礎学力の必要性認識は95%以上で、他国と比べても高水準

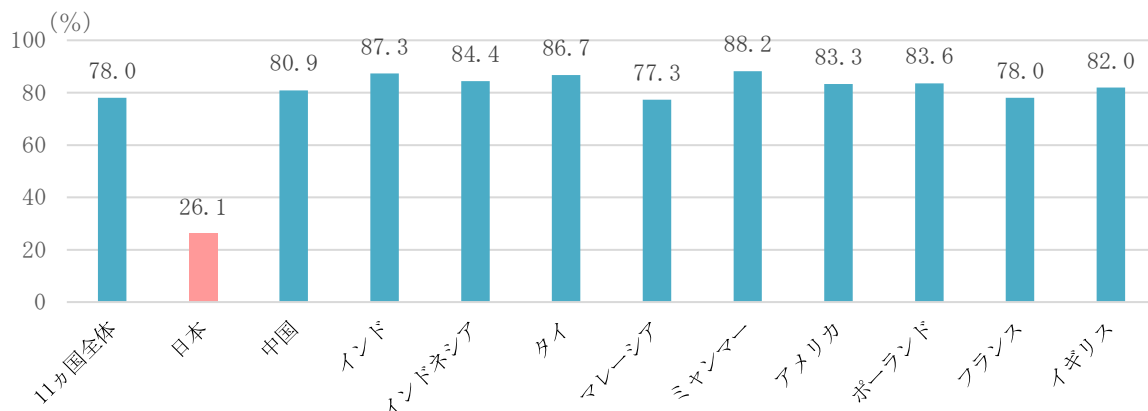
子どもの基礎学力に対する保護者満足度は最も低く、基礎学力への危機意識は強く有する

「基礎学力は大切だと思う」と答えた保護者の割合は、11カ国全体で94.3%、日本で95.9%となり、ほとんどの保護者がその大切さを認識していることが分かる。さらに、子どもが勉強する上で必要不可欠な要素として、96.4%が「基礎学力」と答えており、「応用力」「思考力」などの他の要素と比べてもトップ。世界でも「基礎学力」がトップではあるがその割合は78.3%であることを踏まえると、日本における「基礎学力」の必要性認識の高さが伺える。



また、日本で「子どもの基礎学力に満足している」保護者は26.1%となり、11カ国全体の78.0%を大きく下回り最下位。つまり、保護者は基礎学力を11カ国中最も重要と捉える一方で、最も満足しておらず、基礎学力に対する危機意識は最も強く持っていると考えられる。

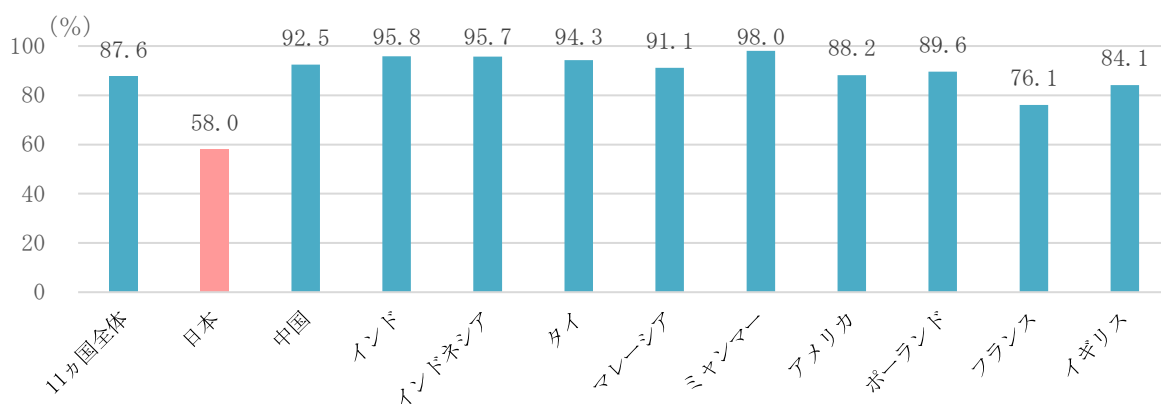
保護者が考える、子どもの基礎学力への満足度



③ 一方、基礎学力向上への努力を行っていると回答した保護者は6割未満で、圧倒的最下位
実際、子どもの学習への関与が11カ国中最も低く、意識に行動が伴っていない実態が明確

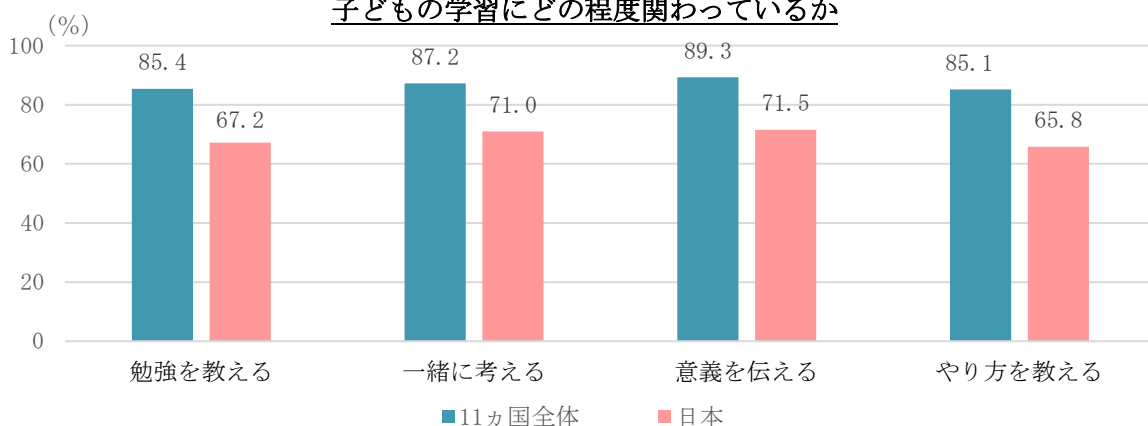
日本の保護者は基礎学力に対する高い危機意識を有する一方、「向上させる努力をしている」と回答したのは58.0%。これは他国と比べ30%ほど低く、基礎学力への意識と、それに伴う行動との間のギャップが顕在化。

保護者が基礎学力を向上させる努力をしているか



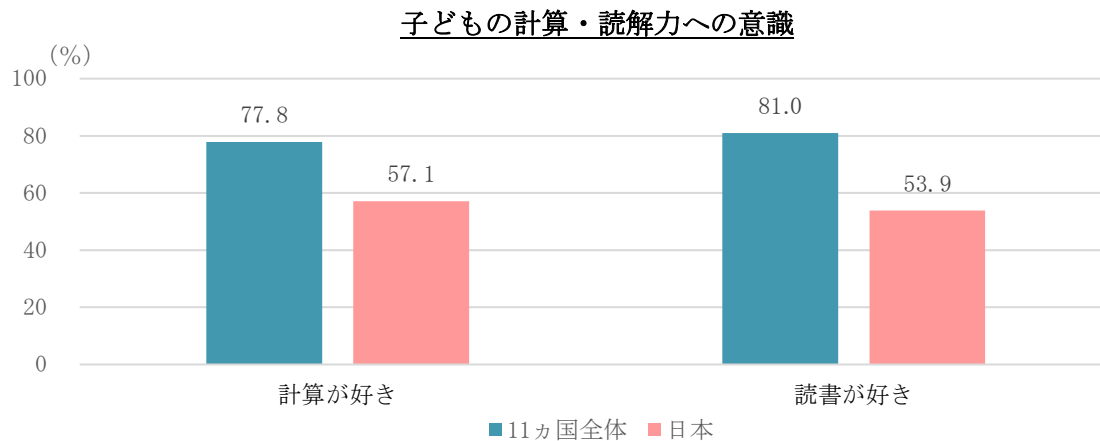
実際、子どもの学習への具体的な関与についても11カ国中最も低い値を示し、基礎学力への高い「意識」はありながらも保護者の「行動」が全く伴っていないことが明らかとなった。

子どもの学習にどの程度関わっているか



④ 子どもの「勉強が好き」「自信がある」との回答が他国と比べて最も低い
年齢を問わず日本の子どもたちは、自信欠如の状態にあることが明らかに

子どもたちへの意識調査において、日本では「計算が好き」との回答が 57.1%、「読書が好き」との回答が 53.9%。世界の平均からそれぞれ 20%以上低く、ともに最下位。



さらに、勉強への自信については、「計算には自信がある」が 49.1%、「読解力には自信がある」が 30.0%で、こちらもともに圧倒的な最下位。意識と同様、自信も他国と比べて極めて低い結果となり、日本の子どもたちは基礎学力への自信が欠如していることが明確。

